

<2014年12月>

■ 「新編相模国風土記稿 寺田縄村」の項を読む <その3>

稲荷社 二 一は鶴巻稲荷と号す。共に村民持

道祖神社 二 村持

吉祥院 瑞雲山と号す。曹洞宗<伊豆国賀茂郡宮山村最勝院末¹>

草創の年代は伝えざれど慶安二年の呈書<その文下に注記す>に二百二十余年の古跡たる由見えれば永享の頃起立せしなる²べし。

開山 龜叟宗俊³<文明十八年十一月十九日卒。慶安二年住僧禅長が奉行所へ出せし書の案に、吉祥院の儀、龜叟和尚は、報恩開山総寧四代春屋宗能和尚の法嗣⁴也。

春屋七派の内、一派のその一也。龜叟和尚は、吉祥院に於て寂了⁵を示す。吉祥院は開關二百二十余年の古跡、由来有る靈地なり。叢林に於てその隠れる者なし⁶也。

龜叟和尚の開山所、伊豆州下田寿福寺。相州寺田縄郷吉祥院の外、御座無く候云々

> 中興開山⁷、仏山長寿<本寺十世、慶長十二年三月廿二日卒>慶安二年八月寺領十五石の御朱印⁸を賜う。本尊釈迦。

衆寮⁹

天神白山合社

宝勝院 前寺の末なり。本尊阿弥だ

(注)

- 1 最勝院末：吉祥院は最勝院の末寺となっています。
- 2 永享の頃起立：明確な年代は分かりませんが、1400年代の初め頃に創建されました。
- 3 開山 龜叟宗俊³：吉祥院を開きました。

吉祥院で、修行を積み、悟さとをひらき、文明十八年（1486）十一月十九日に逝去せいきよされました。

4 法嗣はっす：師から仏法おうぎの奥義を伝えられた弟子

5 寂了じやくりょう：仏道の修業を積み、迷いを脱却して悟の境界に入ること。

6 叢林そうりん：多数の僧侶の集まり住む大寺院。

僧侶たち皆が頭角とうかくを現し、優れた僧侶となっています。

7 中興開山ちゅうこう：仏山長寿師は、一時、廃された吉祥院を再興させました。

8 慶安二年（1649）に十五石の御朱印を下賜されています。

9 衆寮：修学を積む僧侶（学僧）たちの住む建物

寺田繩こあざの小字に「えのしろ」と呼ばれる地名があります。「会后」と漢字で記します。意味は、大寺院や優れた僧侶たちの住む寺院の後とされています。現在その付近に該当する寺院などはありませんが、吉祥院は、現在地より北に位置し、そこは小字名こあざの「えのしろ」のほぼ南になります。「えのしろ」は吉祥院の後と考えることができます。

10 宝勝院：現在は無い寺院（廃寺）です。阿弥陀を本尊とする吉祥院の末寺でした。

（現代語訳）

寺田繩村にはお稲荷さんが二社あります。一つは、鶴巻稲荷と名前がついています。二社ともに寺田繩村の村民が持っています。

道祖神社は二社あり、寺田繩村の持ちものです。

吉祥院きちじょういん

瑞雲山吉祥院という名前の寺院です。宗派は曹洞宗（禅宗）で伊豆国賀茂郡宮山にある最勝院の末寺となっています。創建の年代は伝えられていませんが、慶安二年に役所に出された文書の注記によれば、今（慶安二年）から約二百二十年前の古い寺院とされていますので、創建は永享年代の事と思われます。

寺院を開いたのはがくそうそうしゅん 靉叟宗俊 というぜんじ 禅師です。靉叟和尚おしやうは文明十八年（1486）十一月十九日に逝去されました。慶安二年に僧禅長が奉行所に提出した文書によると、吉祥院について、靉叟和尚は、そうねい 総寧禅師の四代目のむねよし 春屋宗能和尚から奥義を教えられた弟子です。春屋宗能和尚は春屋七派の中の一派に属しています。靉叟和尚は、吉祥院で修業を積み悟を得ました。

吉祥院は開かれて約二百二十年になる古い寺院で、由緒ある霊験あらたかな寺院です。多数の僧侶の集まり住む大寺院で、修行を重ねた僧侶たち皆が頭角を現し、優れた僧侶となっています。靉叟和尚が開いた寺院には、伊豆下田の寿福寺と相模寺田縄郷の吉祥院があります。

吉祥院は一時衰退しますが、ちやうじゆ 仏山長 寿和尚が再興させました。長寿和尚は吉祥院の十代目で慶長十二年三月（1607）二十七日に逝去されています。

慶安二年（1649）八月徳川幕府から寺領として十五石の御朱印を賜っています。ご本尊は釈迦如来です。

衆寮という吉祥院に付属し、修学を積む僧侶（学僧）たちの住む建物があります。

天神と白山を祀った社があります。

ほうしょういん
宝勝院

吉祥院の末寺となっています。ご本尊は阿弥陀如来です。



現在の吉祥院の北に位置し「瑞雲山 吉祥院」の旧跡を示す記念碑です。



山門前の「六地蔵」が迎えてくれます



「仁王」を祀る山門です。

山門左の寺号塔には「山王山 吉祥院」と記されています。かつて、末寺に「山王山 東善寺」が設けられていましたが、両寺の合併に際して、吉祥院は、瑞雲山から山王山へと山号が変更されました。



山門を渡り、本堂を拝観することができます。



左：釈迦如来立像（寛文年間・推定）

右：庚申塔（寛文三年・1663）